

LIBRARY 通信 4*5月合併号

令和7年4月10日(木)発行 大田区立志茂田中学校 読書学習司書 関 二三枝

入学・進級おめでとうございます!



新1年生のみなさん、入学おめでとうございます。

2、3年生のみなさん、進級おめでとうございます。

新しい環境でそれぞれの中学校生活が始まりました。わくわくする気持ちと同じくらい緊張感もあるのではないのでしょうか。どんなことも次につながる大切なプロセスになると思えたらいいですね。

志茂田中学校の図書館は「皆さんが本と出会う」プロセスを大切にサポートします。

心に響く1冊がきっと見つかると思います。図書館でお待ちしています!



4月の学校図書館

月	火	水	木	金
4月7日 始業式 休館	4月8日 入学式 休館	4月9日 休館	4月10日 休館	4月11日 休館
4月14日 開館	4月15日 開館	4月16日 開館	4月17日 開館	4月18日 専門委員会 休館
4月21日 開館	4月22日 開館	4月23日 開館	4月24日 開館	4月25日 休館
4月28日 開館	4月29日 昭和の日	4月30日 開館		

*開館日時が変更になるときは
図書館入り口に掲示をして
お知らせします。

学校図書館利用

【開館日】月～木曜日
(金曜日休館)

【開館時間】
昼休み・放課後17時まで

【貸出冊数・期間】
1人3冊まで・2週間貸出

★夏休み、冬休み前は
1人5冊まで

学校図書館開館日について

学校図書館の開館日は月～木曜日(金曜日休館)です。

毎月の開館日の予定は“LIBRARY(ライブラリー)通信”でお知らせします。

学校図書館利用時間について

学校図書館の利用時間は昼休み・放課後(17時まで)です。

本の貸出開始について

2、3年生の皆さんは4月14日(月)から貸出を開始します。

令和7年度版「図書館利用案内を」を配信していますので、読んでから利用してください。1年生の皆さんはオリエンテーションが終わったクラスから貸出をします。もう少しお待ちください。



5月の学校図書館

月	火	水	木	金
			5月1日 開館	5月2日 休館
5月5日 こどもの日	5月6日 振替休日	5月7日 休館	5月8日 開館	5月9日 休館
5月12日 開館	5月13日 開館	5月14日 開館	5月15日 開館	5月16日 休館
5月19日 開館	5月20日 開館	5月21日 開館	5月22日 開館	5月23日 休館
5月26日 振替休日	5月27日 開館	5月28日 開館	5月29日 開館	5月30日 休館



春です！この1冊からスタートしてみませんか？



14歳、明日の時間割 鈴木るりか/著 小学館 (913 す)

学校の時間割に見立てた7編の短編小説、<1時間目 国語>、<2時間目 家庭科>、<3時間目 数学>、<4時間目 道徳>、<昼休み>、<5・6時間目 体育>、<放課後>で物語が展開します。笑って笑って、ホロッと泣かせる、どんな世代も共感できる小説です。

著者の鈴木るりかさんは2014年に現役中学生で作家デビューしました。デビュー作『さよなら、田中さん』も図書館にあります。

(参考:Book データベース)

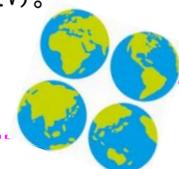


6カ国転校生 ナージャの発見 キリーロバ・ナージャ/集英社インターナショナル (372 き)

6つの国4つの言葉で学ぶとどうなるか？ソ連(当時)に生まれ、両親の転勤で世界6カ国(ロシア、日本、イギリス、フランス、アメリカ、カナダ)の地元校で教育を受けたナージャが、それぞれの国での体験&発見を紹介、机の並べ方、筆記用具、テスト、ランチ……。

世界の教室はこんなに違った！正解はない、違いがあるだけ。「ふつう」がひっくり返り、世界の見え方が変わる本です。

(著書表紙そで・紹介文より)



「フラフラ」のすすめ 益川敏英/著 講談社 (289 ま)



益川教授はにこやかに語りかけます。「新しい時代を生きるみなさんには、世の中の変化を読み取る力というものが大切です。ぼくはこの本で、将来みなさんが熱中できる対象を発見するための、ヒントのようなものを伝えていきたいと思います。

さまざまなことに好奇心を燃やして、いったい自分が本当に好きなものは何なのか、それをフラフラしながら探すことの楽しさ、大切さについて、いっしょに考えていきましょう」(著書裏表紙・紹介文より)

益川教授は2008年にノーベル物理学賞を受賞されました。

10代の本棚 あさのあつこ/編著 岩波ジュニア新書 (019 あ)

作家のあさのあつこさんをはじめ13人の個性豊かな大人たちが綴る「10代の私」と「本」の物語。多感な10代の時期にどんな本と出会い、どんな出来事にこころ揺さぶられながら大人への階段をのぼってきたのか。

その頃の心情やエピソードも交えて語っています。皆さんのこころに響く1冊にきっと巡り合えるはずです。

(著書裏表紙・紹介文参考)

